

Q7 実地棚卸のカウント記録はどのように行えばよいでしょうか。

A7 実地棚卸のカウント記録の方法として、主に棚卸原票（棚卸伝票）方式、リスト方式、バーコード方式などがあります。

棚卸原票（棚卸伝票）方式とは、棚卸原票 1 枚に 1 品目のカウント結果を記入して現品や棚に棚卸原票を貼付し、カウント終了後棚卸原票を全て回収する実地棚卸の方法です。。

リスト方式とは、在庫管理システムなどから出力された棚卸リストと現物を突き合わせて実地棚卸を実施する方法です。

バーコード方式とは、棚卸原票（棚卸伝票）や棚卸リストは用いずに、ハンディターミナルなどで商品や棚に付されたバーコードなどを読み取り、数量を入力する方法です。

### 解説

・それぞれの棚卸方式のメリット・デメリットをまとめると下表の通りです。

記録方式	意義	メリット	デメリット	主な適用場所
棚卸原票（棚卸伝票）方式	棚卸原票（棚卸伝票）にカウント結果を記入して、現品や棚に貼付	棚卸モレ、重複を防げる	手間がかかる	工場、倉庫など
リスト方式	在庫管理システムから出力された棚卸リストと現物を突き合わせ	棚番ごとにロケーション管理が徹底されている場合に、効率的にカウント可能	棚卸モレ、重複のおそれ	倉庫など
バーコード方式	商品や棚に付されたバーコードを読み取り、数量を入力	対象品番の点数が多い場合に、効率的にカウント可能	棚卸モレ、重複のおそれ	小売店舗など

・棚卸原票（棚卸伝票）方式によると、カウントしたことが視覚化され、またカウントミスがないかどうかを後で確かめることも容易であるため、非常に有効な方法です。

・一方で、棚番ごとのロケーション管理が徹底されていれば、リスト方式を採用することで、実地棚卸の作業を大幅に効率化することができます。